数学科

主任：　大 西　康 夫

（1）今年度の目標

①　自主的学習習慣を確立させる

②　基礎学力を充実させる

③　個に応じた指導で、学力上位層を伸長、下位層を底上げする

（2）主な取り組みの計画

①　入学当初のオリエンテーションで、予習復習の方法を具体的に示すことにより、家庭学習習慣を身につけさせる。

②　１・２年生に対して、発展的な学習内容を取り扱う斯文土曜塾を実施することにより、数学への関心と学習意欲を高める。

③　学力テストでの幅広い難易度の出題により、基礎的内容を確認させるとともに、発展的な学習に計画的に取り組む姿勢を持たせる。

④　１・２年生に対して週末課題を実施することにより、生徒の学習習慣を確立させる。また、基礎学力の定着および授業の理解度の向上を図るとともに、発展的な学習を促す。

⑤　定期試験、学力テスト後に訂正ノートの作成を課し、学習内容の理解と定着を促す。

⑥　２年生に対して、少人数習熟度別授業で生徒の習熟度に対応したきめ細やかな指導を行うことにより、個々の生徒の理解度や数学に対する興味関心を高める。

⑦　課外を実施することにより、授業の理解度の向上をはかり、学力を定着させるとともに向上させる。

⑧　４ＳＴＥＰのヒントプリントを適宜配布する。これにより、学習意欲を喚起するともに、学習内容の定着と学力の向上をはかる。

（3）授業アンケートの結果と分析

授業の進度は、速いという意見が多いことも予想されたが、適切であると答えた生徒が多く、全体的にはよい評価を受けている。昨年度までと同様に、1年生がやや2極化していて、授業進度が速いと感じている生徒が29．3％いる。予習復習などの家庭学習を増やさせるとともに、さらに授業を充実させたい。教員の姿勢等については、概ね良い評価を受けている。特に、「授業が有意義」という設問に対しては、約89％の生徒から肯定的な評価を受けている。

以下、授業アンケートで「1:当てはまる　2:だいたい当てはまる」と答えた生徒の割合（％）で分析する。全体的には、「予習」は最近減少傾向であり、今年度はさらに減少していて、かなり低水準である。「復習」は、昨年度より減少している。「予習」、「復習」ともにもっと充実させたい。「意欲」は、昨年より増加傾向であり、これをさらなる学習につなげさせたい。

1年生は、「予習」、「復習」ともに、昨年よりは増加している。1年生はオリエンテーションなどを通して予習・復習の方法を説明しているが、適宜「予習」、「復習」の大切さを話していきたい。1年生の各クラスごとに、4STEP用ノートと、定期試験や学力テストにおける訂正ノートを提出させている。共通の取り組みとしては、学力テスト時にチャート用ノートを提出させている。

2年文系は、「予習」が低水準なままであり、授業を理解し、数学を苦手としないためにもさらに指導していきたい。「復習」は昨年比較でかなり減少しているが、50％は超えさせたい。

2年理系は、「予習」が昨年と同レベルである。「復習」は昨年より減少していて、理系だけにもっと徹底させたい。

2年生全体としては、「予習」はかなり低調な状況である。「意欲」は、特に理系で86％と高い状況にあり、これを毎日の学習、実力養成につなげていきたい。3学期以降、受験に向けて意識が高まるとともに、勉強不足を実感し、本格的な学習の必要性を感じ始めている生徒も増えているはずである。継続的かつ本格的な学習に取り組めるよう、さらに指導していきたい。

3年文系は、2学期以降、「予習」がかなり大幅に減少している。2学期後半にセンター試験演習に入

った影響かもしれないが、ひどい状況である。「復習」も昨年と比べると、かなり減少している。「意欲」は他の学年と比べると少ない。受験間近になったが、最後まで粘り強く数学に取り組ませたい。

3年理系は、「予習」が昨年よりかなり少ない。「復習」は増加傾向にあり着実にできている。「意欲」はほぼ80%と同じレベルである。受験に対応できる実力養成のためにも、基礎基本を固めた上で、入試レベルの応用力を身につけさせたい。

（4）今年度の成果と課題

予習・復習の大切さとその重要性をすべての先生方が説明しているのであるが、肯定的評価をした生徒の割合が、最低50%、1年や理系であれば60%ぐらいは目標にしたい。いろんな場面でその大切さを根気強く話し、予習・復習の具体的方法についても、必要に応じて説明していきたい。予習、復習の必要性が感じられる授業を行うように努力していきたい。教員間で、お互いの取り組みや生徒の現状について情報交換を図り、より有効な指導方法を工夫することも必要である。

斯文土曜塾の登録制講座において、参加者は発展的な内容に、意欲的に取り組んでいた。参加してない生徒へ参加を促すことが必要である。

学力テストでは、できるだけ早い時期にテスト範囲を周知し、チャートを中心に学習させ、基礎的な内容とともに発展的な内容に取り組ませたが、全員の生徒に、十分に取り組ませることができなかった。授業でもチャートの内容を取り扱ったりするなどして、テストの直前だけでなく、普段からチャートを学習できるよう指導していきたい。

週末課題は、2年生は1学期、1年生は3学期に実施した。生徒の学力アップ、家庭学習の習慣づけのためにも必要である。

定期考査後の訂正ノートの提出はまずまずであり、学習内容の定着につながっていると思われる。しかし、十分理解できず、解答を写している生徒もいるなど、一人一人の生徒に対応した指導が必要である。学力テスト後の訂正ノートの提出は十分でないと思われる。発展的な内容を理解、定着させるためにも、生徒たちが最後までやり遂げれるよう、粘り強い指導をしていきたい。

２年生に対して少人数習熟度別授業を実施していて、生徒の学力に応じた指導ができた。少人数ということもあり、生徒にとってはわかりやすく、発言しやすい雰囲気で集中して授業を受けることができたと思われる。意欲の低い生徒に対する指導法のさらなる工夫が必要である。劣等感を持っている生徒もいるので、十分な配慮もしたい。

やらなくてはという意識は高いが、与えられないと出来ない傾向にある。予習プリントを作成したり、4STEP中心に宿題を指示し、定期的に提出させるなど、できるだけ数学に拘らせ、数学に取り組ませたい。